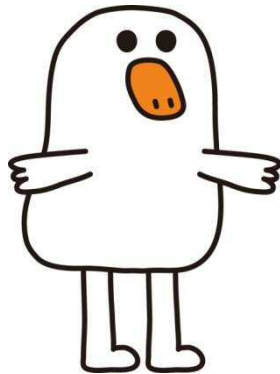


平成30年度 第3回  
誰もが共に暮らすための市民会議  
資料

平成31年3月2日（土） 14:00～16:30  
岩槻駅東口コミュニティセンター ワツツルームA・B



ノーマくん

ノーマライゼーション条例

PRキャラクター

さいたま市保健福祉局福祉部障害政策課

## 第3回誰もが共に暮らすための市民会議 次第

日時：平成31年3月2日（土）

14時00分から16時30分まで

会場：岩槻駅東口コミュニティセンター ワッツルームA・B

### 1 開 会（14時00分から14時35分まで）

- ・事務局挨拶
- ・座長挨拶
- ・「障害者理解に関する周知啓発」についての学生プレゼンテーション
- ・本日のテーマの説明

### 2 議 題

- ・グループ討議（班毎の話し合い）（14時35分から15時40分まで）
  - 自己紹介
  - 障害者への合理的配慮と環境の整備について

（15分間休憩）

- ・全体発表（15時55分から16時20分まで）

### 3 閉 会（16時20分から16時30分まで）

- ・まとめ

# 誰もが共に暮らすための市民会議の手引き

## 1. 目的:

- ①誰もが共に暮らせる地域社会を目指し、市民が主役となって話し合い、意見交換する場をつくる。
- ②障害のある人、家族、関係者や市民が集まることで、コミュニケーションの輪をつくる。
- ③市民の声を政策に反映させる。

## 2. 当日の話し合いのすすめ方:

みんなが話し合いに参加できるよう、グループに分けて話し合いを行います。

- ①1グループ 10～15 名くらいで話し合いをし、意見を出し合います。
- ②各グループに会議進行役をおきます。
- ③書記やタイムキーパー(時計係)は事務局が行います。
- ④各グループの会議進行役と参加者は、みんなが話しやすい雰囲気づくりを心がけます。

## 3. 話し合いルール:

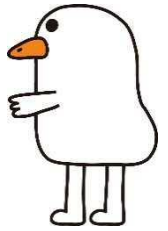
- ①話すときは、会議進行役の呼びかけによって、話し始めてください。
- ②みなさんが発言できるよう、1回あたり3分くらいを目安として発言してください。ただし、障害の特性にあわせて、お話される時に特別な配慮が必要な方は、5分くらいを目安とします。
- ③他の人が話しているときは、途中でさえぎらず、最後まで聞きましょう。
- ④話し合いの相手を攻撃したりせず、意見として受け止めてください。少人数意見を大切にしましょう。
- ⑤特定の個人や団体の悪口や傷つけるような発言はしないようにしましょう。
- ⑥みんなが発言しやすいような雰囲気になるよう心がけてください。また、限られた人だけが発言するのではなく、発言したい人みんなが発言できるよう気を配りましょう。
- ⑦個人的な内容についての発言は、個人情報やプライバシーを守るため、会の後に、個人がわかる形で、他の人に話すことは禁止します。

※ みなさんで、よりよい話し合いをするために、ご協力をお願いします。

話し合いを続けることが不可能と判断した場合は、話し合いを中止することもあります。

## 第2回市民会議のテーマに対する主な意見について

平成30年度第2回市民会議のテーマといたしました、「障害者理解に関する周知啓発」及び「障害福祉分野に関わる人材の確保」に対しまして、たくさんのご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。主なご意見を以下の通りまとめましたので、ご確認ください。



### 「障害者理解に関する周知啓発」

#### 1 障害者理解は深まっていると感じるか

##### ●「深まっている」という意見

- ・アンケート調査の数値は低下しているが、長期的な視点から見れば、少しずつ理解は深まってきており、「ノーマライゼーション」という言葉も浸透してきていると思う。
- ・相談窓口が増えたことにより、障害について理解を深めようとする人が多くなったように思う。

##### ●「深まっていない」という意見

- ・聴覚障害や視覚障害、精神障害、発達障害、高次脳機能障害など、個々の障害に対する偏見があり、理解が足りていない。
- ・駅や商業施設等は、ヘルパーや介助者などに障害者とのコミュニケーションを任せきりにしてしまっていると感じる。
- ・障害者の就労支援を行っているが、障害者を受け入れる、就労先の職員の理解が足りていないと思う。
- ・障害者と接する機会がなく、どのような支援を行えばよいのかわからない。



障害者政策委員会では・・・

- ・障害者理解は進んできているが、見た目では分かりにくい障害に対する理解が十分に進んでいない。
- ・障害者雇用や障害者理解について、企業向けの研修を行っているが、すべての職員に浸透するまでに時間がかかると感じている。

#### 2 障害者理解を深めるためにはどのようなことが必要か

●行政	<ul style="list-style-type: none"><li>・支援をしたいと思っているが、方法がわからない方に対して、事例集等を作成し、市報や SNS 等で紹介すればよいのではないかな。</li><li>・パンフレットの配布だけでなく、ゲームやクイズ等体験型の取組を実施すると効果的だと思う。</li><li>・日頃から障害者に接することが重要であり、そういった機会をもっと増やしてほしい。</li><li>・見た目では分かりにくい障害者への対応など、市の職員向けの体験型研修を増やしてほしい。</li></ul>
●学校	<ul style="list-style-type: none"><li>・小さい頃からの教育が重要であり、教育を施すためには、学校職員の障害者理解が必要である。学校職員向けの研修等をもっと充実させてほしい。</li><li>・小学校等でも障害のある子とない子が交流できる機会を増やしてほしい。</li></ul>
●市民	<ul style="list-style-type: none"><li>・行政だけに任せるのではなく、障害当事者や関係者自らが発言し、周知啓発や障害に対する理解を得ていくことが大切だと思う。</li></ul>



障害者政策委員会では・・・

- ・学校教育で障害者理解の学習をする機会があるが、当事者不在の学習では、特性など本当に理解してほしいことと、ずれが生じている場合がある。
- ・子どもの頃からの教育が重要であり、漫画や動画といった媒体の活用や、余計な言葉を省いたわかりやすい内容、障害者スポーツの体験など、子どもに親しみやすい方法でのアプローチが必要。

## 「障害福祉分野に関わる人材の確保」

### 1 人材確保のためには

●人材育成	<ul style="list-style-type: none"><li>・障害種別に合わせ、専門知識をもった人材育成を福祉学校で行ってもらえるようにしてほしい。</li><li>・もっと地域全体で、障害福祉分野で働いてみようという人を育てていかなければならない。そのためには、子どもを対象とした体験型の研修やボランティアの募集などを積極的に実施してほしい。</li></ul>
●情報提供・周知	<ul style="list-style-type: none"><li>・アンケート結果で「不足していない」と答えた施設が行っている取組を市が確認し、情報提供すればよいのではないかな。</li><li>・小学校、中学校、高校などで、障害者施設で働くために必要な資格を広めると良いのではないかな。</li></ul>
●人材の多様化	<ul style="list-style-type: none"><li>・有資格者だけでなく、退職者や外国人、障害当事者、ボランティアなど、多様な人材に協力してもらえば、職員の負担も減らせる。</li></ul>
●職場定着率の向上	<ul style="list-style-type: none"><li>・新しい人材を育成することも大事だが、就職後の定着率を上げることも大事である。そのためには、有給休暇の取得率を上げる、相談しやすい環境をつくるなど働きやすい環境を整える必要がある。</li></ul>
●待遇改善	<ul style="list-style-type: none"><li>・給与水準の向上や、職員の研修の実施、資格の取得などを支援するために、市独自の補助や助成をしてほしい。</li></ul>
●イメージアップ	<ul style="list-style-type: none"><li>・障害福祉分野で働くことのイメージアップが必要である。</li><li>・これまでの3K「きつい、危険、きたない」と思われがちなイメージを「感謝・感激・感動」という3Kへとイメージアップを図るような取組が必要。</li></ul>

### 2 障害福祉分野で働くことの魅力を伝えるためには

- ・福祉の仕事の楽しさを広められる機会があったらいいと思う。
- ・若手職員から、やりがいなどを熱く語ってもらえばイメージアップにつながると思う。
- ・相手の笑顔が見られたりライフステージと一緒に歩めたりすることに魅力を感じているが、それぞれの事務所がそういった魅力を発信していく必要がある。

障害者政策委員会では・・・

- ・生活を維持できるような給与水準など、待遇面の改善が必要である。職員の処遇改善につながる市独自の補助があればよい。
- ・子どもの頃からの障害者理解の啓発が将来の人材確保にもつながる。
- ・仕事の内容や意義について、もっと浸透させていく必要がある。
- ・市と当事者と関係者が共同でイベントを実施するなど、みんなで力を合わせて良くしていく仕掛けが大事である。
- ・障害福祉分野においても、障害当事者が活躍していただける環境があるのではないかな。



# 障害者への合理的配慮と環境の整備について

障害のある方が、飲食店や医療機関などの不特定多数の方が利用する店舗等で、十分なコミュニケーション支援やバリアフリー環境が整っていないことにより、必要な情報やサービスの提供を受けられなかったというご意見をお聞きすることがあります。

そこで、飲食店や医療機関などの不特定多数の方が利用する店舗の事業者等が、障害のある方に対し、合理的配慮や環境の整備を行いやすくするための取組を検討していきたいと考えています。

## ●合理的配慮とは・・・

障害のある方から、社会的障壁を取り除くために何らかの意思表示があった場合、その負担が過重にならない範囲で、必要な配慮を行うことです。

《例えば》

### 【意思疎通の配慮】

筆談、読み上げ、手話などを用いて説明するなど



### 【物理的環境への配慮】

車椅子利用者のために段差に携帯スロープを渡すなど



### 【ルール・慣行の柔軟な変更】

順番を待つことが苦手な方に対し、周囲の理解を得た上で手続きの順を変更するなど



## ●環境の整備（事前的改善措置）とは・・・

施設におけるバリアフリー化や情報の取得等におけるアクセシビリティの向上など、障害者が利用しやすい環境をあらかじめ整備しておくことです。

### 【他市の取組例】

飲食、物販、医療などの不特定多数の方が利用することが見込まれる事業者等に対して、以下の費用の助成を行っている自治体もあります。

- ・点字メニュー、資料の音訳版の作成などのコミュニケーションツール作成にかかる費用
- ・筆談ボード、折り畳み式スロープ等の障害者に合理的配慮を提供できるようにするための物品購入にかかる費用



障害者への合理的配慮と環境の整備についてご意見をお願いします。

■ これまで利用した店舗等で良かったと感じたことは？

・合理的配慮について

例) 飲食店で写真付きメニューがあり、食べたいメニューを選びやすい。

「筆談に対応します」の看板があり、気軽に利用できる。・・・など

・環境の整備について

例) 入り口にスロープが設置してあり、車椅子でも入店しやすい。・・・など

■ どんな工夫があれば、店舗等をより利用しやすくなりますか？

・合理的配慮について

例) 診察の順番が番号で表示されるが、視覚障害がある人の場合、本人の希望を聞いたうえで名前でもらえる。

・環境の整備について

例) 店舗に多機能型トイレが設置されていると、より利用しやすい。・・・など

■ 事業者等が合理的配慮や環境の整備を行いやすくするために、どんな取組が必要だと思いますか？

例) 他の店舗がどんな支援を提供しているのか、事例集を作成するとよい。・・・など